



## ● 苦しみに耐え、楽しむ

中野ハガネ株式会社

代表取締役会長 松下 浩二郎

今年の正月は「あけまして御目出度うございます」とはとてもいえる心情ではありません。大変な状況が顕在化し始め、年末年始のお休みが不安です。とはいえ、経済状況を憂いても企業実態は変わりません。こんな時、仕事の原点復帰と技術、独自性を重視し、追いつづける基本姿勢は今も昔も同じです。先の分からない戦いにおいて重要な意味を持つ心の問題が、あらためて大切になると思います。

約10年前、昔の山仲間数人と穂高を訪れた時、同行の1人からヒマラヤの素晴らしさを熱く語られ、私の中で眠っていた山登りの虫が目を覚ましたのです。さっそく翌年彼と一緒に初めてのヒマラヤに行きました。昔の登山経験から少なからず自信もあったので、最初から憧れでもある世界一高い山「エベレスト」に直面すべく、近接のビューポイントである、5,550 mの小ピーク「カラパタール」に挑戦しました。風景の素晴らしさと裏腹に、高度の影響は私の予測をはるかに超え、軽い頭痛もあり、口はパクパク、心臓はド

キドキ、体は動かず。楽しい山行どころか、難行苦行の連続でした。ところが下山後、正常な気持ちと体調に戻ると、苦しみが楽しい思い出に変わり、次の計画を考え始めていました。その後は毎年1~2回ヒマラヤを訪れ、惑々する事前の準備と、苦しいだけの山登りと、下山後の次なる挑戦の立案を繰り返しています。

憧れは実行時の苦しみを生むも、それに耐え乗り越えれば次なる挑戦を生むもので、企業の経営も同じだと思います。将来への想い、実行時の苦しみ、更なる挑戦は永久不変の循環で、それには修行にも似た苦しみに耐え、楽しむ心境が必須条件だと思っています。大変な状況を迎えている今、あらためてこのことを痛感しています。

新しいこの年は、この想いをかみしめて、苦しみに耐え、楽しみ、原点復帰と技術、独自性の実現を目指し、追いつける姿勢を貫きたいと心に決めました。